midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

January 2016 No.411-412

１月号の１枚：冬本番、霜の造形

若者たちへの希望、豊穣の森つくり

新春　お慶び申し上げます

突破口が見つからず苦悩していた「サプライチェーン構想」に昨年後半に手掛かりを得ました。好事魔多し。今年、慎重にと心しています。

第21回流域シンポジュウムは12月6日、大月市民会館で「桂川地域協議会」を中心に「海は恋人：畠山重篤氏」基調講演で環境省の幹部参加の下、「[1]若者たちの活動、[2]環境税の使い方、③流域の交流」と3分科会の2部構成で行われました。

主催者からの要請で[1]若者の活動の部にForest Novaの釜谷優太さんが堂々と実践活動を発表しました。また、発表者の一人で湘南からきた逞しげな男子高校生の実体験でした。この高校生は、森での活動で「マムシ毒と毒消し薬の効果」とはどんなものだろうか実証確認することを、「毒対策研究所」と連絡を取りながら自分の身体を使って実験したそうです。実際に、マムシに自分の腕を噛ませて薬効果を確認し3日で治癒し毒実体験は無事完了しました。用意周到な準備と自らを実験台とした彼の勇気・度胸・探究心・・、若者は凄いですね。当会の若者たちも〝キラリ〟と輝く行動を度々、見せてくれています。若者たちに「希望・豊穣の森つくり」を期待すると同時に、私達年配者も腹を据えて取り組まねばなりません。環境問題改善は、良き教育が前提です。

私はソウルオリンピックを挟んで４年間、韓国で農業を学びました。強烈な体験と厳しい教訓に出会いました。[1]唐辛子王･韓光沢さんの東海山脈・広大な軟斜面での実践作業、[2]ソウル総合大学・柳達永総長の教えは、「自然と共生する者は、神の事業の代行者である」でした。書籍ではなく実践の中にこそ真実が有り福沢諭吉先生・実学の教えでもあります。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2016.01

1月　（第一日曜日）：
小原本陣の森、知足の森
　いずれも森のしきたりにより、活動を行いません
1月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

12月6日（第一日曜日）

中学生5名が「知足の森」の活動は、前日に繰り上がったのを知らずに、相模湖駅に集合。急遽、小原の活動に合流することになった。

冬至の2週間前頃は、日の入りが年間で最も早く16時30分頃なので、午後の作業は早目に切り上げる必要がある。小原の郷を経由し基地までは、大人は徒歩で万歩計の歩数を増し、中学生はバス。

小原の郷で落合って基地に到着。ミーティング後、午前中は数か月間取り組んできた孫山のハイキングコース（北回り）の道標設置の仕上げとして、大久保沢の入口の道標のプリント文字の貼付けと、さらに奥の道標２本の設置を行った。これで予定の道標の設置は完了したので、来年からは、活動状況に合わせてハイキングコースの整備に取り組むことが出来る。

午後は作業はせずに、帰路として小原の基地から尾根を越えて長福寺を目指すことにした。小原の森の活動と知足の森(長福寺：中学生)の活動はいずれは統合することを目指している。中学生の参加で、相互の位置関係や距離感を確認しておく良い機会である。

まず、大久保沢の奥の新しい作業道を登りながら孫山へ向かった。緩い登り道で何回か折り返した。中学生達は、近道すると急斜面を足を滑らせながら登っていたが、中には作業道を歩けば良かったと弱音を吐くのもいた。

作業道は尾根近くで行き止まりになっていたが、藪漕ぎして１０m位登ると、見慣れた明王峠からの尾根道のハイキングコースに出た。さらに5分位で孫山の頂上に到着した。

晩秋の孫山は静かで、落ち着いた空気で溢れていた。南コースを下りながら、長福寺の目印になる測量杭を捜した。測量杭が見つかり、中学生達は急斜面の藪の中を滑りながら下って行った。暫くすると後姿も見えなくなった。長福寺の前の一般道で全員の無事を確認し、解散した。

川田　浩（本会、理事）

[定例活動]知足の森

12月5日（第一土曜日）

今月の知足の森の活動では、小原本陣の森定例活動の報告でもありましたように、連絡がうまくいかず、小原のほうへ、参加する中学生と、知足の森の定例活動に参加する中学生に分かれて作業を行いました。知足の森のほうへの三鷹市の中学生が中心となって活動を行いました。まだ１２月はじめということもあり、長福寺の入り口は見事な紅葉が広がっており、作業前にしばし見とれてしまいました。

作業自体は今回、初めて参加する中学生もいたので、一から丁寧に取り組むことにしました。ノコギリを持つのも初めて、斜面での作業も初めて、ということで、かなり戸惑っていたように見えました。しかし、そこは若さゆえか、あっという間に他の中学生と混じり、作業を続けていました。今回は広葉樹の区画の除伐を行ったので、大きな木を切ることはなく、各自で作業を進められたということもあり、思う存分作業を楽しんでいたように見えました。そのような過ごし方をして、午前中の作業で自身をつけてもらったところで午後からはいよいよ大物に挑戦し

ました。１０本は出ているであろう萌芽更新の芽を一人ずつ切っていき、手入れを完了しました。みんなで力を合わせ作業をする、その成果を共有する、初めて参加してくれた中学生にもその実感を持ってもらえた活動になりました。次回の嵐山にも必ず参加する、と宣言し今回の作業を終えました。これからの活動が楽しみになるメンバーがまた一人増え、来年入ってくる新入生の指導をしてくれる姿が今から楽しみです。

宮村　連理（本会、理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

12月20日（第三日曜日）

中央線の電車が多摩川に差しかかる頃、車窓からは西丹沢の大室山を従えた純白の富士が遠くにはっきり望まれる。今年最終の活動にふさわしい日和だ。今日は日大から生態学実習の学生たち２０名の参加もあり、総勢７１名とやや多め。

お花畑班は先月に引き続き剪定を終えた梅の枝の片づけを行う。その傍ら、先月に種播きしたカキ菜がびっしりと隙間なく芽を出していたのには驚いた。次回は間引きの必要がありそうなほど。春に咲く黄色の花も美しいが、葉脇から出た花芽をさっとゆで、出汁醤油であえてお浸しにするとたいへん美味なので今から収穫が楽しみ。花も実もあるお花畑班である。

大学生の連合チームであるフォレストノバはＯＢを含め、このところ各班に分かれての作業が目立つ。材の仮置き場建設が中でも顕著だ。今回も川崎さん、淺野君、治田君たちが長谷川大工さんの指導のもと柱材のほぞ切り、組み合わせに専心している。が、思いのほか作業がはかどっていないこともあり、材が雨に濡れ腐ってしまう恐れがあることを考慮し、在来工法にこだわることのない方向も視野に入れている。生命の森宣言東京は基地に近いＡ地区でボサ刈りと間伐。

昼食には相模湖駅前・かどや食堂特製のダイコン、ニンジン、サトイモの入った具沢山のスープが参加者のお腹を満たしてくれる。いつもながら有り難い。この間、何名もが近くにある山主・鈴木さん経営の野菜直売所で買い物をする。ユズ、クルミ、聖護院ダイコン。

午後から日大勢は嵐山山頂に登り、その足で帰る予定。目立ったのはカブトムシ牧場の管理班だ。まずは四角い囲いの中にできた腐葉土を取り出す。これは畑の肥料に。寒い季節、もうカブトムシの幼虫はいないと思ったが、なんと１０８匹も棲んでいた。これは図らずも煩悩と同じ数（だから何なの？）。その後、クリ畑に積もった落ち葉をブロアーで集め囲いの中に投入する。久しぶりに顔を見せてくれた体験学校長の斎藤さん、ノバの女子学生２人、いつもお子さん達と一緒に参加される富永一家の働きのお蔭で作業は完了。安心して新年を迎えられる。

一方、苦戦を強いられたのは森林整備班。「森の積木」用ヒノキを３本ほど伐る予定であったが、最初の１本でつまずいた。密に繁る森の中、しかも樹高２２m、元口４０数ｃｍもの木を伐るのは精鋭部隊ぞろいの整備班にとってもそう簡単ではない。残念ながら掛かり木になってしまった。午後からはお花畑班のメンバーも合流して総力戦の様相。その甲斐あって何とか無事に処理できた。玉切りまで行い、こちらもよい新年を迎えられそう。望星高校はトチノキの毎木調査、地球環境部は伐った材の皮むき作業と高い尾根上で２４本もの間伐を行った模様。

師走の空の下、どの班も充実した作業を終える。後には石村夫人手づくりのお汁粉が待っていた。これは恒例の行事。気温が下がってきたこともあり皆、身も心も温まりながら帰路についた。来年も実り多い年でありますように。

内野　郁夫（本会、理事）

[連載]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

「めしたき婆さん奮戦記」

森作業に励まれる皆様のお世話係として、最初のフィールド「与瀬の森」の谷川の水でお米を洗ったのが私の活動の始まりです。町会議員の方々とも親しくなり、湖畔でのイベントに参加出店させていただいて、「茹でタケノコ」一皿１００円や古着を売って活動費を稼ぎました。「嵐山の森」に移ってからは女性の協力スタッフも増えて、最初のうち山主：鈴木様のお庭で昼食づくりをしていましたが、日曜の休日に早朝から庭先で大勢がワイワイガヤガヤと騒いで随分ご迷惑をおかけしたことでした。或る時は体験学習の団体を受け入れ総勢１０８名を数えることとなりご飯が足りず、駅前までパンやおむすびを買い集めに走ってもらったこともありました。鈴木様の先代：重彦おじい様から４kgもの栗を頂いて栗ご飯を炊こうとしたのですが、あいにくの雨嵐。何度も薪の火が消えて、どうしてもお米が煮えず、芯があるまま召し上がっていただくことになりましたが、お米より栗の方が多かったので、「栗ごはん」ではなく「ご飯栗」になっていて、皆様に美味しいと言っていただいた時はほっとしました。小原本陣祭ではお客さんも笑いながら相模湖産と称してサンマを焼いて売ったことも楽しい思い出です。話は尽きません

があと少し、体の続く限り頑張りたいと心に誓っています。

石村　鸞子（本会、会員）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

桂川・相模川流域協議会シンポジウムに参加

　通年よりも一足遅い冬を迎え、先月まで紅葉を見せていた木々も寒々しい装いを見せる季節となりました。
　今月12月6日は第一日曜日なので本来は小原地域での定例活動日でありますが、この日は小原定例活動を行う班と桂川・相模川流域協議会主催の第二十一回流域シンポジウムで発表をする班の二班に分かれました。
　このシンポジウムでは、現在“NPO法人森は海の恋人”の理事長を務めている畠山重篤氏が講師として基調講演を行い、その後「流域での若者達の活動」、「環境省の取り組みと水源環境保全税・森林環境税」、「流域での交流・ふれあい」という三つのテーマの分科会に分かれ、それぞれ活動の紹介を行いました。Forest Nova☆も「次世代につなぐ若者達の活動」として、桂川から相模川の流域での森林整備活動や啓発活動の様子を紹介しました。また第一分科会ではForest Nova☆以外にも、元々林業に勤めていてその後大月短期大学に入学し現在人と水の関係について学んでいる学生や横浜清陵総合高校で相模川の生態系保全活動を行っている学生の活動、更に都留の伝統野菜である水掛菜という野菜を栽培、販売をしている都留文科大学のサークルの四つの団体や個人の発表が行われました。Forest Nova☆も慣れない一人での発表や約8分間という短い時間ではありましたが、少しでも相模湖での活動を分科会に来ていた学生や同じような活動をしている方々へ伝えることができれば良いなと感じながら行いました。また、分科会の後には都留市で養魚場を営んでいる方や横浜市の水道局の方々ともお話しすることが出来ました。
　改めて森や森に関わるシンポジウム、交流会に参加することによって、同じ森に対して保全活動を行っている団体や森で活動がしたいという人と出会うことができ、今まで活動する機会がなかった相模湖よりも上流での活動を行うことが出来るのではないかと期待に胸が膨らみました。こういった流域での活動している団体をつなぐ桂川・相模川流域協議を通して、今後もForest Nova☆の活動を広げていきたいと思います。

釜谷　優太(Forest Nova)

[報告１]
ForestNova報告
桂北小学校環境教育

　冬枯れの季節を迎え、落ち葉の絨毯で森が埋め尽くされるこの頃。私たちForestNova☆は11月、嵐山にて桂北小学校の3年生を対象にした環境教育を行いました。今企画は、7月、11月、2月の計3回と、年間を通してのカリキュラムとなっており、今回は2回目の授業です。
　当日は、真っ青な晴天の中、ForestNova☆と子供達は朝早くから桂北小学校の昇降口で集合。重い目を擦りながら、朝の挨拶が始まりました。自己紹介と活動の説明をしたら、いざ出発です。
　嵐山に着く頃には皆すっかり眠気が覚めたのか元気いっぱい。その有り余る体力で走り回る前に、まずは体操です。「いっちに、さーんし！」。森の中での体操は野外授業ならでは。自然の空気を吸い込みながら、少し斜めっている土の上で橋を踏ん張ります。
　体操の後は準備が終わるまで、即席で前回行ったゲーム「葉っぱじゃんけん」を行いました。前回7月の企画では葉っぱを使った遊び「葉っぱじゃんけん」と生き物観察。その流れで、今回は、カブトムシ牧場体

験と、木の丸太づくりです。

さて、カブトムシ牧場体験は、ある程度作業が進んでいる拠点近くの牧場で行いました。熊手やブルーシートをうまく使って大量の落ち葉を集めたり、ふかふかの落ち葉の上を踏みしめたりします。なかなか無いこともあり、子供達は皆はしゃぎながらあっという間に落ち葉が集まっていきました。

場所は変わって、次は幼虫の採取です。こちらはまだ幼虫が取り切れていない嵐山の看板近くで行いました。幼虫は土を被せようとすると別の所から他の幼虫が出てきてしまうほどで、既にブルーシートを捲った時から数匹白い姿が見えています。子供達も即座に「カブトムシいたー！」と騒いでいました。中には幼虫を触れない子もいましたが、それでも育ててみたいそうで、皆喜んで持って帰っていました。子供達の楽しそうな顔、嬉しそうな顔をみて、子供達の為にカブトムシ牧場を継続していきたいと強く実感する１日でした。

その後は、丸太の椅子づくり体験です。班に1つ丸太を受け取った子供達は勢いよくやすりで削っていきます。その後は自由に絵の具でお絵かき。個性溢れる作品となりました。少し寒かったこともあり作業が難航。しかし、それらも学びとして、冬の山の寒さを実感したり、椅子作りも大変だと実感したりすることができたのではないかと思います。

前回では緑の森、今回は橙の森、そして次回と続きます。季節によってガラリと姿を変える森。色だけでなく、温度や動植物の違いを肌で感じたことでしょう。次回の体験は最後となりますが、さらに楽しく、より濃い学びとなるようにしていきます。

世持　由美子(Foret Nova)

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail：　info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版、２２世紀やま・もり再生ネット